

わたしの聖戦

女性が働くということ

医学ジャーナリスト・医学博士

植田美津恵

連 235 載

マスクと女子の前髪

新型コロナウイルスの影響で、街中の人々のマスク姿が当たり前前の光景となつて久しい。

そろそろ先が見えつつあるなか、諸外国ではマスクの義務化を撤廃し、テレビの映像から流れる姿はほとんどがマスクなし、である。

日本は、もともとマスクを義務化していなかったが、以前からマスクには拒否感がなく、強要されなくてもマスクを着用することに抵抗のない人が多かった。

私など、なるべくマスクはかけたくないと思つていてるタイプだが、そうではない人の方が多いことに今更ながら気づいた。

ここに来て、マスクを外さない、または外したくないという声があちこちから聞こえてくるのだ。

長い間の習慣だから、マスクをするのがあたり前になつたから、口元や表情を隠すことができるから、などなどがその理由である。習慣となつてしまつたことを解禁するのはなかなか勇気がいることは理解できるが、顔の一部を隠すことを厭わず、むしろその方がいいという人が結構存在することに驚いた。

そこに、ある既視感(デジャブ)を持った。

以前、外国の人々がスタジオに集まり、日本に来てびっくりしたことを

をテーマに議論する番組を見た。そこで話題に上つたのが、女性の前髪だった。日本女性の多くは大人になつても前髪がある、そのことが外国の人にとっては奇異にみえるというのだ。

前髪を短くすることを

女性は前髪を短くしている人が多くことがわかつた。前髪があると、やや幼く、つまり若くなるし、なぜ前髪をつくるのかという問いに対しては、おでこを出すのが嫌だという理由が多い。

確かに、前髪があるこ



とで顔の上部が隠れる。それが即、小顔にみえるかどうかは人それぞれだろうが、どうも小顔効果を狙っている節もうかがえる。

はて、これはマスクと同じではなからうか。

「前髪をつくる」という。つまり、横や後ろの髪の毛と同じように長くするのはではなく、目や眉のあたりで髪を揃えるスタイルだ。

以来、日本と諸外国の女性のヘアスタイルを比べてみると、確かに日本

相手の反応はお構いなく、前髪をつくつたりマスクをすることは、表情を隠すとともに、皆同じというところに大きな安心感をもつものらしい。つまり、人と違っていること自体が不安で落ち着かなくなるのだ。

前髪を垂らし、マスクをつけ、同じような流行の服を着る……。そこには表情も個性も何もない。そんな風景を日本らしいと思えるか、気持ち悪く人それぞれだろうが、諸外国と違っていることは確かだ。

諸事情のため、マスクが必須という人もいることだろう。マスクをする人・しない人、それぞれ違つて当然だということを理解し、認め合つて、はじめて「With コロナ」：、大人の国と言えらるのではないだろうか。

イラスト・伊藤香澄